2-7．今年度の成果と今後の課題

令和３年度調査で挙げられていた課題と方向性について、本調査における成果と今後の課題を以下に再整理する。

項目（令和４年度調査）		令和３年度調査で挙げられていた課題・方向性	令和４年度の取組み方針	本調査における成果	今後の課題
[redacted]	定例会	・新規、既存を問わず会員の掘り起しを行い、定例会の参加人数を増やすと共に、次世代に繋いでいくための取組みを継続して検討を進めていく必要がある ・地主会との連携を強化して意向醸成活動を進めていく必要がある ・今後も引き続き会としての考えを取りまとめて発信し続け、地権者の意向を跡地利用計画に反映させていく必要がある	・組織強化を目指して既存会員の掘り起しを適宜行うとともに、若い世代の人材育成を行う。 ・公共事業としての対外的な組織の説明を行うために会則作成を行い、組織の基盤固めを行う。	・「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」と周辺の都市マスタープラン、緑の基本計画の関連性を示し、次年度の活動に繋がる、若手の会としての考えを取りまとめることができた。 ・今年度も主に web 会議での定例会開催であったが、昨年に引き続き新規会員が３名定例会に参加した。 ・会則作成について、結成 20 年の節目に改めて会の在り方について定例会参加者で意見交換を行い、若手の会としての組織の認識が把握できた。	・今後の若手の会の定例会の持ち方、過去に若手の会会員であった方の習得されている知識をどう継承していくかなど、若手の会の活動を次世代に繋げていくための取組み内容について若手の会として検討を進めていく必要がある。 ・今後も継続した活動に繋げるためには、社会的な組織として会則は必要となることから、会の意見を反映した会則を作成する支援を継続して行う必要がある。
	地権者 意見交換会	昨年度実施無し	・地権者に対し、全体計画の中間取りまとめ（第２回）の検討内容に関する情報提供と知識の習得、跡地利用計画に対する興味・関心を促す。	・若手の会の自らが、地権者側の検討組織として活動を行なっていることを紹介し、その後の意見交換でも会員自らが進行を行った事で、参加者から意見を引き出しやすい雰囲気を作り出す事ができ、活発な意見交換となった。 ・これまで、平日は夜間、休日は午後からの開催を行ってきたが、新たな参加者を呼び込み、より多くの地権者に対して跡地利用計画に対する興味を喚起するためにも、平日昼間の開催を行った結果、夜間よりも参加者数が多くなったことから、今後開催するうえでの参考となった。	・地権者の意向醸成を進め、普天間飛行場返還後の円滑な跡地利用を促進するため、今後も継続して地権者意見交換会を開催し、より多くの地権者へ跡地利用計画に対する興味・関心を喚起し、意見等を引き出す必要がある。 ・将来的に跡地利用計画の内容について深い知識を習得した地権者を増やしていくためにも、毎年度継続して参加しようと思えるような取組みや意見交換のテーマ設定等、検討していく必要がある。
[redacted]	定例会	・今後の定例会のあり方について検討する必要がある ・市民等に対して、普天間飛行場跡地利用計画の状況など情報提供を行う必要がある ・市内の各種組織等に対して「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」策定後、普天間飛行場跡地利用計画の検討状況など情報提供を行う必要がある	・これまでのＮＢミーティングの取組みを踏まえ、今後の組織のあり方や支援の方法について検討を行う。	・昨年度から組織のあり方について定例会の中で議論が行われてきた。これまでの議論内容を踏まえて、事務局として今後の活動として休止し、組織再編を行うための整理期間とする方向性を定例会で示し、参加者から了承を得ることができた。そして、定例会での意見交換やアンケートを通して、これまでの会の活動について良かった点や改善が必要な点をお聞きすることができた。	・今後も市民を対象とした、跡地のまちづくりに関する取組みを行い、新たな人材発掘等を促進する。NB ミーティング会員から得られた取組みの改善点を踏まえ、検討を行い、内容の充実を図り、興味関心の向上に繋げることが必要である。
	市内各組織に対する情報発信及び広報	昨年度実施無し	・市内各種団体の代表が一堂に会して意見交換を行うことで、将来の継続した議論に繋げていくためのキックオフミーティングとしての役割を果たす会とする。	・意見交換を進めていく中で「PTA として協力は可能」、「青年会の研修メニューに盛り込むことも検討できる」など積極的な意見が挙がったことから、市内各種団体との連携に繋がるきっかけづくりができた。	・今回はキックオフミーティングであったため、参加者も新鮮味があり様々な考えや意見を交換することができた。今後も引き続き懇談会を開催する場合は、意見交換テーマや議論の内容に興味を持たせるようにする必要がある。 ・今後、懇談会を継続して開催するにあたって、返還後のまちづくりの担い手となる若い世代の人材掘り起しを視野に入れて取り組む必要がある。

[redacted]	イベントの企画・開催	昨年度実施無し	・跡地利用に関する情報や行政の取組みについて周知を図るため、多くの全世代を対象としたパネル展を開催した。	・これまで若い世代の観覧者が比較的少ない状況があったが、沖縄国際大学でパネル展を開催したことで、10 代、20 代の若い学生への情報発信ができた。また、学生から多くの意見を頂き、跡地利用に興味があることも把握できた。	・アンケート結果から、普天間飛行場返還後のまちづくりへ興味を持てたと回答した方の割合が 9 割以上となっており関心の向上が図られたが、興味を持てなかったと回答した方の中には「結局どうなるか分からない」といった意見があったことから、次回は跡地利用を考える目的等を伝えるパネルを加えることや、更に多くの方が観覧できる会場を見つける等、情報発信の充実を図る必要がある。
	出前講座の企画・開催	昨年度実施無し	・普天間飛行場跡地利用について、これまでの取組み内容を紹介し、児童・生徒に返還後のまちづくりについて考えてもらう機会を促すために実施する。	・まちづくりワークショップを４回実施した。（大山小学校、大山公民館、新城児童センター、大山児童センター） ・夏休みの自由研究として活用できるようワークショップの内容を工夫したことや、提出した自由研究が先生方から好評だったことから、小学校での出前講座開催につなげることができた。 ・大山小（6 年）生徒の 40 名が普天間飛行場跡地利用について「知らない」と回答していたが、講座終了後には 86 名の生徒が「わかった」と回答した。このことから、小学校での出前講座開催において多くの児童・生徒に対し普天間飛行場跡地利用計画の周知を図ることができたと考える。	・次年度以降も多くの児童センターや公民館等で開催することで、多くの児童・生徒に対し、まちづくりへの周知や、小学校の出前講座開催につなげる必要がある。 ・児童・生徒の付添いで参加した保護者の方々からも、楽しかったとの声が寄せられた。次年度は、保護者の参加も積極的に呼び掛けていくことにより、跡地のまちづくりへの興味・関心を持つ市民を増やしていくことが必要と考える。
[redacted]	まちづくり講座の開催	・新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みてオンラインでの配信のみとしたために参加者が限定的であったが、今後はオンラインと会場参加での併用型の開催など、より多くの地権者、市民が参加しやすいよう工夫する必要がある ・多くのまちづくり人材の育成を図るため、動画一般公開の視聴者からより多くの質問がでるような工夫が必要である	・市民、地権者、若手の会及び NB ミーティングに対して普天間飛行場跡地利用について学習する機会を提供し、まちづくり人材育成に繋げるためにまちづくり講座を実施する	・「周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ」をテーマとしたまちづくり講座を２回実施できた。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況が収まってきたことから、感染対策を行った上で会場参加ありでの開催と後日動画配信の併用型で開催できた。 ・普天間飛行場の周辺市街地である伊佐地区において、市民・住民と共に公共空間の活用について具体的に検討し、その実施に向けてどのように進めていけば良いか先進事例から学ぶ機会をつくることができた。	・伊佐公民館を会場に実施し、会場周辺の住民の方を中心に参加して頂くことができたが、今後、学生や宜野湾市内全体からより多くの方に参加して頂けるよう周知を工夫する必要がある ・まちづくり活動の実践に繋がるよう、庁内関連部署との連携や情報共有、講座の内容を踏まえて実践に向けた地域活動支援が望まれる。
	先進地視察会及び合同勉強会の開催	―	・先進地のまちづくり事例を習得し、知見の共有を図る。	・地域と協働でまちづくりを進めていくために必要な持続可能なまちづくりに必要な事項に関する知識を習得し、知見の共有を図る事ができた。 ・進出する企業自体がまちに対する愛着を強く持つことで、我々がまちを何とかしようという思いが沸き、それが企業と周辺の商店や住民と連携したまちづくりの取組につながるという事例から、シビックプライドの醸成に関する知識の習得と共に知見の共有を図る事ができた。	・行政としてできること、地域ができること、企業ができることはそれぞれ限られているため、普天間飛行場返還後のまちづくりについて具体的な検討を進めていく段階においては、各々の立場でできることを提案しながら進めていくことになると考えられる。そのため、今回習得した知識をもとに、現時点から産官学民の連携のあり方について少しずつでも検討を進めていく必要がある。

項目（令和４年度調査）		令和２年度調査で挙げられていた課題・方向性	令和３年度の取組み方針	本調査における成果	今後の課題
	ふるさとの発行	・紙面の見やすさ、分かりやすさについて更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるようにする必要がある	・誰にでも分かりやすい情報誌とする。	・全地権者に対して跡地利用に関する行政･若手の会の取組みについての情報を発信する事ができた。 ・跡地利用計画の内容については二次元バーコードを貼り付けて視聴できるようにすることで、ふるさと誌面だけでは量が多く伝わりづらい内容についても周知を図る工夫を行った。 ・第２回まちづくり講座の講義のようすについては、撮影した動画を編集して二次元バーコードとURL リンクを追記することで、本誌で初めて講座の存在を知った方に対しても当日のようすや講座内容が理解できるよう工夫を行った。	・誌面の見やすさ、内容については更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるよう努める必要がある。 ・誌面だけでは伝わりづらい内容については、動画を撮影してリンク先を記載するなど、誌面で伝える部分と動画で伝える部分を仕分けすることで、より効果的な情報誌になるよう継続する必要がある。
	まち未来だよりの発行	・紙面の見やすさ、分かりやすさについて更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるようにする必要がある	・誰にでも分かりやすい情報誌とする。	・市民に対し、まちづくりについて考える際の視点について、パネル展キャラバンやまちづくり座談会、先進地視察会、まちづくりワークショップの取組みから得られた事例を通して発信することができた。	・市民に対して跡地利用に関する情報を提供し市民の関心を高めるため、情報支援ツールとして「まち未来だより」は重要である。そのため、紙面の見やすさ、分かりやすさについては更なる工夫を凝らし、より多くの市民に見ていただけるよう努める必要がある。
	有識者の意見聴取	・今後も継続して意見聴取を実施し、意向醸成活動の方向性や手法等に関する検討を進めていく必要がある	・合意形成活動の実施に関する提言・助言などをいただき、地権者等関係者の着実な合意形成活動に繋げていく。	・若手の会及びNB ミーティングに対し、若手の会の会則や NB ミーティングの活動の方向性に関するフィードバックを行うことができた。	・意向醸成活動を進めるにあたって、今後も継続して意見聴取を実施し、方向性、手法等に関する検討を進めていく必要がある。